



外国人花嫁が気づいた 日本の本質

心
あ
つ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

日本人に嫁いだ外国人女性の気づきが、外から日本を知りたい話だと思いましたが、御紹介します。日本人に嫁いだ黒人女性が得た幸せな気づき 東洋経済オンラインより アメリカ人の生粋のニュー Yorker だったタラさんは、寿司職人との運命的な出会いにより、現在は和食レストランのマネジャーとなった彼の妻として、そして彼との3人の子どもを持つ母親として名古屋で暮らしている。結婚から7年、3人の子どもたちに恵まれた現在、洋平さんは名古屋で和食レストランの料理人兼マネジャーになり、2人の息子(7歳、5歳)と3歳になる娘に恵まれた。私たちの最大の壁はコミュニケーションだった。なぜ肯定も否定もしないのか不思議だった。どうしてはつきりとした言葉で伝えてくれないのかって「そんな経験を重ねていくうちに少しずつ気づいた。タラさんが気がついた日本文化の本質とは、7年間の時を経て、今はつきりわかったと感じることがある。

「もしもあのままアメリカで暮らしていたら私たちの関係は今とまったく違うものだったはずよ。アメリカで結婚していた頃はおコメを炊かない日だって珍しくなくて、平日はご飯を炊いてない、それだけでしょ」なんて言ったりしてた。でも今はそんなことありえない。ご飯がないなんて許されることがよ。お釜を空にするなんて絶対にしてない。今はこれが私たちのライフスタイル、これが私たちの文化になったと実感してる」こんな小さなことだけど、でも積み重ねてきたらわかった。なぜ洋平が自分の気持ちを強く言葉にしないのか。つまりそういう文化じゃないということ。ここでの文化は、みんなが快適でいられることを大切にしている文化、そのために自分の意見はどっちつかずにしてもいいときがある文化なの。伝えたい本音は少しほのめかしたり、それとなく示すだけでいい。今は彼の本心や言いたいことがすぐよくわかるようになった」

イエスノーと言えないのではなく、相手への気遣い、尊重を優先して、言葉で伝えることができないという気持ちを感じさせてもらえなかった。相手をおもいやる文化を大切にしたいと思います。

TBS NEWS
23)放送 二酸化炭素を“夢の技術”で利用、欧州での取り組み

より
大気中から二酸化炭素を回収する装置で二酸化炭素を大気中から回収して販売する企業があります。温室栽培施設に利用すると二酸化炭素の濃度を高めることで光合成を促進し、野菜は2割ほど大きく、そして早く収穫できるようにになりました。年内にも炭酸飲料メーカーの工場に装置が設置される見込みで、メーカーにとっても二酸化炭素の運送コストや排出量の削減につながります。アイスランド最大の地熱発電所では、発電に伴って排出された二酸化炭素を石に変える作業が行われています。この技術は、日本でも応用が可能だといえます。